

# かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛

笠岡市用之江377

郵便番号714-0066

(0865)

電話 66-1311

FAX 66-1314



新春の大教会神殿に飾られている松竹梅の鉢  
小庭を象り、中に燈籠・鶴・亀を置き南  
天・笹・福寿草などを配植した縁起物の  
寄せ植えである。 (1月14日 撮影)

## さあ！おたすけ 祈る 動く つなぐ

おたすけ・お願いカード

集計： 59,557枚

平成26年11月21日～12月21日

累計：611,272枚

立教178年  
1月号

# 立教百七十八年

## 明けましておめでとうございます

昨年は年祭活動二年目に当たり、成人目標積み重ねの年として、共に成人の歩みを進めてまいりました。皆様方には精一杯おつとめ下さり、誠に有難うございました。お陰でたすけ一条の

上に次々と不思議なご守護をお見せ頂き教祖のお働きを感じさせて頂けた一年でありました。

いよいよ本年は年祭活動仕上げの年でございます。より一層教祖のお働きを感じさせて頂ける年にしたいと思えます。その為には、



よふぼく一人ひとりが陽気ぐらし実現のための用材である事を改めて自覚し、年頭の心定め、完遂を目指して、笠岡に繋がるよふぼく信者が一手一つの心で、三年目の実践項目を加えた成人目標の実働に邁進させて頂かなければなりません。そして念願のおつとめ奉仕人の増員にも繋げたいと存じます。どうぞ今年一年おたすけの感動感激を味わえる年にさせて頂きましよう。

笠岡大教会長

上原理一

本部長・深谷善太郎先生講話

### 何としても教祖に

### お喜びいただきたい

12・21 本部巡教において

笠岡大教会では12月21日、大教会十二月祭典に引き続き、本部長・深谷善太郎先生のお入り込みを賜わり本部巡教を受けさせて頂いた。

これは、教祖130年祭三年千日活動の最後の一年を迎えるに当たり、教祖年祭の意義の徹底を図る上から実施されたもの。

深谷先生は、1時間20分に亘り、仕上げの年を迎える今時旬、教会として、また、一人ひとりのよふぼくとしてのあるべき心の構えをお諭しくされた。逸話篇を引用されながら、また、たすけの実働に励むよふぼくの例、不思議なたすけをいただいた方々の例をいくつも引用され、この旬にお掛けくだされるご存命の教祖の親心のほどを切々とお話しくされた。

仕上げの年を迎える私たちの気を付けるべきこと、また、どうすればその気になれるかと、順を追って縷々お話

しくだされ、参加した大教会役員・部内教会長・布教所長らは、仕上げの一年が、銘々定めた心定め、完遂をもって、ご存命の教祖のお姿・親心を感じさせて頂いただけの感動・感激の一年になれるよう、先達よふぼくとしての決意を新たにされた。

深谷先生のお話しの後、大教会長様は、仕上げの年を迎える決意を述べて閉講の辞とされた。講話の要旨は次の通り。

#### ◎教祖年祭の意義の再確認

『諭達第三号』にお示しいただく通り、ただ今の年祭活動の柱は、おたすけです。

三年千日の年祭活動に入って直ぐに、諭達でお示しいただく指針を徹底するために本部巡教を実施しました。

さらに、それぞれの教会・一人ひとりのよふぼくが、具体的におたすけの上での目標をもってつとめようということ、このたびは、全教会一斉巡教をしました。

さらに、よふぼく一人ひとりのおたすけ活動を後押しするために、本年、よふぼくの集いが開催されました。いよいよ、来年は年祭活動の総仕上げ



聴講者を前に、篤く話される深谷先生

げ、成果をもって教祖にお喜びいただく年を迎えます。

立教179年1月26日に、教祖130年祭がとめられます。

教祖110年祭・120年祭は、年祭の日は1月26日、1日限りでした。それまでの年祭には期間がありました。110年祭以降は期間はありません。

その点については、教祖130年祭も同じですが、110年祭・120年祭の折には、

ちようどその年の月次祭に合わせて会長登殿参拝があり、また、年祭の年のおちばを賑やかにという活動もあつたので、何とはなく年祭の年を迎え、そのまま年祭活動に引き続いてず

るすると4年目に突入したような気がします。

しかし、年祭活動というのは、元々、教祖の年祭の日までにその成果を挙げようということ、三年千日、目標を持って歩んでいるのです。

来年は、その総仕上げの年。それに相応しい目標をしっかりと持って、仕切った上にも仕切つてつとめたい、その日を目指して悔いのない年祭活動をつとめたい。

\* \* \*

◎教祖の親心を味わい直す

教祖の年祭活動は、教祖の親心・お導きにお応えしたいという上から、一番お喜びくださるに違いないおたすけの上で頑張ろう、成果を上げようというところに大きな意味があります。教祖の親心にお応えするためには、その親心・

御恩が分からねば、当然、動きも鈍くなります。

そこで、先ず、教祖の親心を味わい直すところから話を進めたい。

ある60代の女性から悩みを相談されました。癌で食道を全摘出したため、喉と胃が直結し異常に細くなって物が入りにくい。それが時に苦しい、また、身体を傷付けたことについて、涙ながらにその辛さ・苦しみを訴えられました。家族がそのことを分かってくれないことも嘆きの一つでした。

話しを聞かせてくれと行って来られました。泣きながらずっと話されるのを見ていて、心に収まるような状況ではないと感じたので、一つだけ質問しました。

「奥さん。教祖は貧のどん底をお通りになつている最中、明日炊く米もない時にさえ、

世界には、枕もとに食物を山ほど積んでも、食べるに食べられず、水も喉を越さんと言うて苦しんでいる人もある。そのことを思えば、わしらは結構や、水を飲めば水の味がする。親神様が結構にお与え下されてある。(伝三章)

と子たちを励ましながら通られたが、私自身は、長期間、喉から物が入らないような経験がないので実感として分らないが、奥さんはそういう生活で、改めて喉から物が入るようになったときは、どんな感じがしましたか？」

すると、それまで、辛い苦しい悲しいと泣いておられたその奥さんは、また涙をこぼされ、「そりゃ、美味しかった。」「そのことはお子さんやお孫さん、周りの方に話されましたか？」「いや、話してない。」「是非、話されたい。」「家の宝になりますよ。」と申すと、「素晴らしいお話をいただいた」と大変喜ばれ、おさづけを受けてお帰りになった。

私は、このことを通して改めて感じたのは、教祖の親心です。

私は、尋ねただけで何も話していません。その方の病状は何も変わっていません。

来たときは辛くて苦しくて悲しくて泣いておられたが、帰るときには喜びの涙を流しながら帰られた。身体は何も変わっていないのに、心は全く変わりました。

それはなぜか。教祖の御逸話に感動

したからです。「成程、こんな状態の中にも、こうして喉から物が入る」ことの喜びを味わったからです。

◎**教祖の逸話は、たすけの理話**

教祖の御逸話は、教祖伝・逸話篇を覧れば数々あります。それは、決して昔話ではありません。昔の人がたすかり、そして、今の私たちがたすかり、これから百年後・二百年後の人びとがたすかるたすけの理話です。

そのことをしっかりと味わうことが大切だと思えます。

★教祖の逸話篇、数ある御逸話の中を覧ると、教祖は、吹雪の中帰ってきた増井りんさんの

冷え切った手を、両方のお手で、しっかりと握り下された。(中略)何んとも言いあらわしようのない温かみを感じて、勿体ないやら有難いやらで、りんは胸が一杯になった。(逸44)

とあります。  
ご存命の教祖は今も、おちばへ帰った私たちを、お姿こそ見えませんが、このようにお迎えくださっているに違いないと思えます。

★危篤状態で、戸板に乗って運ばれてきた拙冬鶴松さんに、

教祖は、「かわいそうに。」と、仰せになって、御自身召しておられた赤の肌襦袢を脱いで、鶴松の頭からお着せ下された。(逸67)

ご守護いただいた鶴松さんは、「今も尚、その温みが忘れられない。」と一生 (逸67)

語り伝えたとあります。  
私たちが病気で苦しむ人をおちばへお連れ帰りすれば、今も教祖はこのようにお迎えくださっています。

★花疥癬かいかせんという膿を持つ病気になった9歳の今川ヤスさんが親に連れられて帰ると、教祖は、

お口で御自分のお手をお湿しになり、そのお手で全身を、なむてんりわうのみこと なむてんりわうのみこと なむてんりわうのみこと

と、三回お撫で下され、つづいて、又、三度、又、三度とお撫で下された。ヤスは、子供心にも、勿体なくて勿体なくて、胴身に沁みみた。翌日、起きて見たら、これは不

思議、さしもの疥癬も、後跡もなく治ってしまった。(逸129)とあります。

今も、私たちの取り次ぐおさづけに、教祖は同じようにお働きくださっています。

◎**年祭活動らしい風が吹いている**

おさづけに

この道は、常々に真実の神様や、教祖や、と言うて、常々の心神のさしづを堅くを守る事ならば、一里行けば一里、二里行けば二里、又三里行けば三里、又十里行けば十里、辺所へ出て、不意に一人で難儀はさゝぬぞえ。後とも知れず先とも知れず、天より神がしっかりと踏ん張りてやる程に。(明20・4・3)

とお約束くださっていて、私どもにとつて、これほど有難い、また頼もしいことはありません。

道の路銀ともお聞かせいただくおさづけの理ほど有難いものはありません。11年前、私の教会で世話人先生が代わられて初めて来られた月次祭のおつ

とめ中に、てをどりをしていた婦人が急によるめいたので、急ぎよ別の婦人がおでふりに立った。その婦人を降ろすと直ぐに崩れ落ちるように倒れ、おさづけを取り次いで病院へ運んだことがありました。

祭典後、演台上立った私は「全く心配は要らない。一番たすかりやすいおつとめ中に倒れたので、絶対たすけていただける。それよりも、神様は、私たちに何を望んでおられるかを考えましょう。」とお話ししました。有り難いことにその婦人は元気になられ、11年経ちますが、今も元氣にとめてくれています。

このことがきっかけになり、祭典後におさづけを取り次ぐようになりましたが、少ないときでも50人を割ることはありません。多いときは100人以上の方が並べれます。

それは、たすかるからです。考えてみれば、自宅や病院で寝ておたすけを受けるのも結構ですが、しんどい中、苦しい中を、わざわざ教会の月次祭に合わせて足を運び、参拝をしているということが、すでに、そこに一つたすかる種があるように思えます。

数々の御守護をいただいできました。

ただ今は、年祭活動のまったただ中、なるほど、年祭活動らしい風が吹いていると、改めて感じます。

### ◎おさづけを取り次げば、絶対に手応えがある

★今年になって2人の方が、癌の手術が無事に終わるようにとお願いに來られました。2人とも手術直前の検査で癌が消え、泣きながらお札に來られました。

★脊髄がずれてそこに神経が当たり、激痛で動けない、非常に難しい手術で、下手をすると一生動けなくなると医者から言われた方も、手術の当日の検査で異状がなくなり、医者から「一体、何かしたのか」と逆に尋ねられたと、泣いてお札に來られました。

有り難いですね、私にそんな力がある訳がない、親神様・教祖のお力・お働きです。

おさづけを取り次いで手応えがないことは絶対にありません。こんな宝を、使わずにいるほどもったいないことはありません。

★もう何日も前から意識がなく、瘦せ衰えて、点滴の管で何とか辛うじて息がある、いよいよ病状が悪くなり家族を呼ぶように言われた方のところに行きました。

家族の方にお話しし、おさづけを取り次いで帰りましたが、夕方には意識が戻ったと電話が入り、それから徐々に元氣になりました。

この方は「前後全く記憶がない。全く覚えてないが、会長さんが来てくれて、おさづけをしてくれたことだけははっきり憶えている。あれで助かった」と言います。

私が行ったときは一番具合が悪かったときで、分かるはずがありません。家族の方たちの真実、この方はたすけていただいた。しかもその上、おさづけでたすかったということ、神様は、ちゃんとその方の記憶に留めてくださった。有り難いことです。

★兵庫県の豊岡にある部内教会の會長が脳内出血を起こして病院へ運ばれました。

翌朝、おさづけから車で3時間掛けて、早速おたすけに行きました。非常に大

きい立派な病院で、エレベーターだけでもずらっと並んでいる。

そこで、ばったり、別の、同じ河原町部内の布教所の息子さんに出会い、父親が倒れてそこへ運ばれたと言うので、先ず、目的だった教会長のところへ行き、次いでその布教所長のところへ行きました。

病室に入るなり家族が泣いて喜んでくれました。それはそうでしょう。布教所長が病院に運ばれた翌朝に、豊岡の病院へ大教會長がおたすけに來てくれる確率がどれくらいあるのか、信号に引つかければ、会わなかった。

エレベーターでぼったり会うことが、どれだけの確率か。物を借りるに1階へ降りて來たそうだが、物を借りに來なかつたら会っていません。私は、これは神様だと思えます。

おたすけ人が動けば、神様は必ずそうして働いてくださる。二人とも御守護をいただきましたが、何より神様のお働きを感じました。

\* \* \*

### ◎気をつけなければならぬこと

ところで、教祖にお喜びいただくために、今、それぞれの教会・よふぼく

一人ひとりが定めた年祭活動の目標は、どこまで到達したでしょうか？

本当に、年祭らしい緊張感を持って仕切った歩みができてきたでしょうか？ 所属するよふぼくへの丹精・働かけが十分にできてきたでしょうか？

真柱様は前の秋季大祭で『諭達第三号』の発布以来、事あるごとに、全てのよふぼくがおたすけに取り組もう、おたすけを心がけようと呼びかけてき「たと仰せになり、「教會長の皆さん方には、預かるよふぼく一人ひとりに応じた丹精をお願いする」とともに、自ら率先しておたすけの範を示していたきたい」と期待のほどを述べられました。

おたすけと丹精、布教と丹精こそ、今日の私たちの使命です。

年祭活動最後の年をどう歩むか、今日までできてきたところはさらに前進、思うように捗らなかつたところは、何としても決意を固めて仕上げの年らしい最終年の目標を持ち、仕切って歩み切りたい。

### ◎思い込み

その際、気を付けなければならぬことがいくつあると思います。

その一つは、思い込みです。道専務につとめている教会長やその家族は、うっかりすると、教会生活Ⅱ信仰生活、道専従Ⅱたすけ一条——何もかも神様に捧げているような気持ちになり、朝から晩までご用をしている、何とはなくご用を果たしているような気になる、思い込む場合があるように思います。

しかし、道専務というのは、形であり立場です。実際に布教と丹精にどれだけ尽くしているか、働いているかが問題で、それぞれ振り返る必要があると思います。

### ◎集団性バイヤス

「集団性バイヤス」にも注意が必要です。

集団性バイヤス——バイヤス＝偏見・先入観——たとえば、突然、会社や学校の寮で避難訓練をし、警報がなる。一人部屋の人はすぐに出てくるが、多人数の部屋は必ず遅れる。災害時に集団でいると驚くほど動きが遅い。災害の危険性はいつしよなのに、大勢いると、何となく安全なような気になる。周りにじっとしている人が大勢いると、自分もそこでじっとしてしまふ。

これも、私たちにないでしょうか？ 教祖はお一人だった。道の先人も大勢の仲間はいませんでした。

今日、これだけ、お道も、大勢の仲間ができた。仲間がいるために、その姿を見て遅れてしまふ。「自分もあかんけど、あの人もあんまり変わらん」。うちの教会も動きが鈍いが、他所の教会も大したことない」という具合に、周りを見て何となく安心してしまふことで後れをとっていないか？ 大勢のために後れ、動きが鈍るなら、教会の値打ちはありません。

むしろ、「あの人はもう人を連れておちばへ帰つたらしい」・あの教会は、もうこんなに大勢の人をお連れ帰りしたらしい」・「負けてられない」・「うかうかしてられない」という雰囲気を作らなければと思います。

来年はこのままではならんという思いから、うちわけ会(高安系の教会が、教祖にお喜びいただこう、別席場をいっぱいにしたらどれくらい喜んでいただけるかと別席団参を呼びかけました。

別席場は100室あり一部屋に100人入るので、別席場をいっぱいにといつとか

なり大きな目標ですが、問題は、別席者が1万人になるかならないかではありません。

高安系でやることを聞き、東のあずま関係・天地会(北)・斯道会(河原町)・心勇講(敷島)・天竜講(郡山)、それぞれが、自分たちの大教会だけではなく系統を挙げてやろうという計画が次々できてきました。今は、かなめ会が終わると、「どここの系統どこへ集まってください」と随分活気が出てきました。

これは、教祖にお喜びいただこうという競い合いです。この競い合いは、是非、皆さんの教会でもやっていたきたい。そして、教会の中のおふぼく同士も「よし負けてられない」という気持ちでおつとめいただきたい。みんながそんな思いで来年つとめたら、おちばにはどんな空気が、雰囲気溢れてくるでしょう。

連れて帰つた人も連れて帰られた人も勇むに違いありません。皆さんの教会も是非、こうした動きに乗っていただきたい。

### ◎パーキンソンの法則

注意すべき点、3つ目はパーキンソンの法則——これは何かと言うと、「仕

事の量は、完成のために与えられた時間をすべて満たすまで膨張する。」——たとえば、小学校で1日でできる簡単な宿題を言われたとしても、提出期限が1週間後なら、ほとんどの子は1週間後に提出するという。

このパーキンソンの法則に陥らないためにはどうするかというと、すぐに動くこと、途中で仕切りを設けて動くこと。

私たちお道の者はそんなことは分かっていますから団参をしたり大祭まで年末までと仕切りを設けて動いています。

しかし、その仕切りが本当に仕切りにならなかつたら、団参が本当に仕切つた団参にならなかつたら、このパーキンソンの法則に陥ります。本気で動く、すぐに動くということを見せていただきたい。

たとえば、一人のおふぼくが、年祭までに何とか一人の別席者を御守護いただきたいと決心したとしても、3年間あつたら何とかなる、1年で十分、一人なら一ヶ月でも、あの人かこの人に行ってもらえばと思つていううちに、もうその日がやってくる。来てからでは遅いということ。

やはり、すぐに動くことが大切です。

最終年は、仕上げの年に相応しい目標を定め、背水の陣を敷いてつとめた。背水の陣といっても、悲壮感を漂わせるのではなく「よし、やろう」と勇んだ気概を持つてつとめたい。

\* \* \*

◎動いているよふぼく

ここで、ただ今の年祭活動の中で、動いているよふぼくの例を紹介したい。

★7年前に入信した男性は、別席を運んでよふぼくになりました。信仰初代ですから、神様の話しを人に説くことが難しいので、周りにいる人に、教会へ行こうと声を掛け続けました。

最初の内は、月次祭の祭典に間に合わず直会に連れてくる。それでも、この7年に、その中から30人をおぢばへ案内し、15人が別席を運び、今年10人目のよふぼくが誕生、皆おつとめ衣を着ておつとめに出るようになりました。

自分でお道の話は説けなくても、教会長の手足として、まさに働いている。次々、教会へ人を案内してくる。立派なよふぼくとしての役割を果たし

ていると思います。

★ようぼくの集いに参加したあるよふぼくが、お話しを聞いて早速、自分の声掛けからよふぼくになった友人に声を掛け、2度目の参加をしました。ところが、2度目の参加直後に転んで骨折しました。

この人は、せつかくその気になって動きだしたのになぜ骨折したのかではなく、これはきつと自分が誘ったあの人に、神様はおたすけさせようと思っておられると考えました。

下手をすると反省だけに終わってしまいかねませんが、よふぼくはおたすけしようという集いのお話しだったので、教会の会長には、「友人の配偶者と子どもに必ず別席を運ばせる」と誓いを立て、松葉杖をつけて友人のところへ行き、「あんたおさづけを取り次ぎなさい」と通っています。なかなかできないですね、これ。

★ある87歳のよふぼくは、昨春、介護認定を受け、だんだんと身体が動きにくくなり、電動ベッド・車いす生活になりました。娘さんと二人暮らし、週2回のデーサービスに迎えに来ても

らい入浴の世話取りをしてもらおうようになつてから教会に話しがあり、会長が毎日おたすけに通いました。

すると、夏にはすっかり元気になり、元通り動けるようになったその女性には、ようぼくの集いを受け、今、世話取りしてもらった施設へ行き、そこにいる方に「きつと元気になりますよ」と声を掛け、いをいがけに回っています。

この方自身も偉いが、私は教会長の丹精が良かったと思います。

87歳で身体が動かなくなった方なら、常識に流れて諦めてしまったり決めつけてしまつて「病気ではないから喜んで通ろう」というような話しで済ますことがないでしょうか。

この教会長は、毎日、おたすけに通つて御守護を願つた。やはり、その真実の姿がその女性にも移り、87歳の女性をしてしっかりとリハビリしようという勇氣を持つことになった、もちろん、神様の御守護がなければ元通りにはなりません、そこには、会長の一生懸命の丹精があつたように思います。

★ある91歳の在宅介護を受けているよふぼく、なかなかおたすけにいをい

がけにというわけにいかない、よふぼくとして何とか年祭活動のご用に役立ちたいという思いから、せめてというので介護にやってくるケアマネージャーに一生懸命お道の素晴らしさ、神様の御守護の有り難さを説きました。人を世話するときは話しやすいですが、世話されるときに道を説くのは結構難しいように思います。

熱心に話す中にこのケアマネージャーに子どもの無い悩みがあることが分かり、「夫婦で別席を運んだらきつと御守護いただける」と話しました。

熱心さにほだされて昨年6月に夫婦で別席を運び出したところ、9月に妊娠していることが分かつたという話しがあります。

91歳でもその気になればおたすけができるということ、また、神様はお働きくださるということです。

★ある女子青年が新幹線に乗っていると、「お医者様がいらつしやいましたら何号車まで」と放送が掛かり、彼女はすぐに立ち上がつてその車両へ行きました。人が倒れて、周りを取り囲む乗客と車掌さんがいた。すぐに、「医者ではありませんが、

今から神様にお願ひしますので、皆さんもいっしょに願ひてください」と言っておおたすけを取り次いだ。すると、その倒れていた人の意識が戻ったという話があります。

呼ばれたのは医者であって女子青年ではありません。彼女に年祭活動、何とかおおたすけの成果をとという気持ち・心構えがなかったら立てなかつたと思います。この女子青年の勇氣によって一人の人がたすかっています。

神様は、私たちがそうした勇氣を持つて立ち上がる、これをお待ちかねくださっていると思います。

どこでも誰にでもおおたすけはできる。

私たちの教会の初代も入信間もなくおおたすけを実行したのであって、始めからおおたすけのベテランという人は一人もいません。

\* \* \*

### ◎布教の原動力は、報恩感謝の心

今、お話しした方々の姿の中に、私はヒントがあるように思います。

その一つは、原動力は報恩感謝の心だということです。

87歳、91歳で、こうして生きている、居いていただいていることが有り難いと、ご恩を感じていればこそ、にをいかけやおたすけをしようという気になるのであって、何もないのにやろうということにはなりません。

ご恩を感じればこそ動けるのであって、車がガソリンで動くように、報恩感謝の心が人をしておおたすけに立ち上がらせるのです。

皆さんにも、親神様が一番良いように、陽気ぐらしをお導きくださるために、いろいろな姿をお見せくださったと思います。

信仰の元一日、信仰に入った親は、どんな気持ちで神様に縋り、通ってきたのでしょうか？ 入信してから以降は何の悩みもなく平坦な道中だったのでしょうか？ そんなことはないと思います。入信してからも、やはり、いろんな道があつたと思います。

神様はいろいろな節をもつてお仕込みくださる。時には辛い日、切ない思いをした日もあつたと思いますが、そんな中を親神様に縋り、教祖にお導きいただいて今日があるのです。

私はこれを決して忘れてはならん、

今が当たり前だと思つてはならないと思います。

この報恩感謝の心が原動力なのです。

今お話ししたことは、教えの根本であるかきもの・かりものに関わりの深いお話ですが、かきもの・かりもの話しと聞けば、耳にタコができるくらい聞いてもう十分知っているという人も大勢おられると思います。

しかし、このことは何度も何度も繰り返して味わわれないと、人間はすぐに慣れたり忘れたりしてしまい、すぐに自分のものだと思ひ込みやすいのです。

ボールペン一つ借りても、返すときにはお礼を言います。お金を借りれば尚のこと。しかし、いつの間にか配偶者には礼を言わなくなり、子どもも自分のもの、教会でさえただの自宅になつていたのでは、何にもなりません。そもそも、この身体さえ神様からのかりものなのです。そのことを思えば何としてもお応えしたい、ご恩にお応えせずにおれないという気持ちになるはずです。

### ◎動く・声を掛けるということ

ヒントのもう一つは動くということ。話すことも含めて行動することです。動けばおおたすけ心は湧いてくると思います。

目の前に溺れる人があれば、誰だつて手を差し出します。世界中の人の心にたすけ心はあると思います。目の前に病気で苦しむ人があれば、誰しもたすかつてもらいたい。

しかし、川の水も動きがなければよどむように、たすけ心も部屋の中でじつとしていたのでは湧いてこない、動くことによつて初めてたすけ心も湧いてくる、動きがなければ信仰心もよどむと思います。

東京にある、ある大手書店では「お声掛け」ということをしています。そもそも本屋は客が本を選んでレジへ持つてくるのを待つ「待ち」の商売ですが、インターネットで本が買える時代になつたので、待つているだけでは商売にならない。客に「どんな本をお探ですか」と声を掛けると、どのフロアのどこにどんな本があるかを全部知っていないと案内できないので自然に店員のレベルが上がります、客との繋がりができて、売り上げがぐっと上がつ

たという話があります。

私たちも、声を掛けることで求道心も向上すると思います。「お話ししたい」と言い「どうぞ」と言われたとき話すことがなかったらどきまぎし、自然に、どんな話しをしようかと勉強するようにになります。

そもそも、書店内で迷うどころか、人生に迷っている人に声を掛け、教会へおぢばへ案内し、人生の目標を伝え、生まれ変わっていただくおたすけという尊いご用を、私たちはしているのです。

言葉は道の肥、言葉たんのうは道の肥く、  
(明34・6・14)

とお教えいただけます。声を掛けることは何より大切です。

どんなときに幸せを感じるのかと言えば、一般社会では、人から愛されているとき、愛されていると思つたとき、人から信頼されているとき、頼りにされる時、人・世の中・世界の役に立っていると感じたとき、こんなときに幸せだと感じます。

しかし、考えてみれば、これらはすべて人のために動くことよつて得られるものばかりで、何もしないのに世

の中の役に立ったりはしません。

人のために動くことよつて幸せになる、正に「人たすけたら我が身たすかる」のです。

その「人たすける」ことの第一歩が声を掛けるということです。今は無縁社会と言われる社会になりました。独り暮らしの人が世の中の約3分の1だと言われ、何かのときには打ち明けようと思つても打ち明ける相手がいません。

悩み事というのは、他人から見れば些細なことでも、本人にとつては重大事であつて、簡単に人には言えないものです。まして打ち明ける人もない時代なら、私たちが声を掛けるのを大勢の人たちが待っている、親神様・教祖がお待ちかねくださつていてと思うのです。

◎**報恩感謝の心で仕切つて動こう**  
皆さんの教会、教会に繋がる人々のおたすけ心は曇つていないでしょうか？

まずは、教会長が動いてにをいかけ、おたすけの先頭に立ち、よぶ・ほく・信者の丹精の上にも動くことが大切です。おたすけに通う、世話をする、期

待を掛ける、諦めない、足を運び声を掛け続ける、惜しみのない粘り強い丹精をお願いしたい。

この年祭活動に入つてから全教会に丹精のてびきという小冊子をお渡ししました。

十分分かつていることばかりかもしませんが、できているかどうかは別のこと、チェックシートとしても活用し、積極的にご利用いただきたい。

教祖130年祭に向かう仕上げの年、教会長を始め先達の動きが大切で、年祭活動の正否はここにいる皆さん方、一人ひとりに掛かっています。

教祖は私たちに大きな期待をお掛けくださつていてに違いありません。年祭の句はたすけの句、成人の句、しかしたすかる道を通つてこそたすけの句であり、成人の道を歩んでこそ成人の句です。

報恩感謝の心で仕切つた実行の努力をすれば、親神様はどうでもこうでも楽しみ働けば、これ種と成る。  
(明33・12・22)

また、日々尽して嬉しい。(中略)日々嬉

しい一つの種は、一粒万倍に成りて日々治まりて来る(明24・12・19)とお教えくださり、さらにそうしてつとめた結果、  
理 尽した理(働いた理)は生涯末代の  
(明33・4・16)

それほど大きくお受け取りいただけます。

◎**やれば分かる**  
今は、一手一つに揃つて動く、立ち上がるのがなかなか難しい時代のようにも思いますが、それはなぜでしょう？

一つには、現代人は自分の頭で理解できたことを科学的だ合理的だとして信じやすい。そして、分からないこと納得できないことについては動かないという性分・傾向を持っている人が多いと思います。

以前、バナナダイエットというのが大流行しました。テレビで科学的データを述べ立てたので、全国の主婦が飛びつきましたが、結果、痩せたのか？これも科学データを信じやすいという一つの姿。数字に弱い。科学だと言

う

われると納得しやすい。

また、鶴はなぜ冬に凍てつくような川の中で1本足で立って寝るか？それは、敵が川に1歩足を入れた瞬間に水を伝わって分かるので、寝ていてもすぐに敵の侵入に気付くことができ、片足で立っている方が体温が保持できる、この2つの理由だそうです。

これは、鶴に訊かなければ分からないことですが、人間が、合理的だと考えたそれが正解になる、正しいと思いつむのです。そんなことが結構あると思います。

加えてIT社会、情報化社会、お道でも、CD・DVD・メール・インターネット、おぢばへ帰らなくても教会へ行かなくても情報は手に入る時代になりました。

しかし、分かっただけ、知っただけではたすかりません。足を運び心を向け実践・実行しなければたすかりません。「人たすけたら我が身たすかる」、これは実行したら分かることです。つとめとさづけでたすかる、これも実行して初めて分かること。

子どもの頃は、分からなくても教えられるままに社会生活に必要なものを周りの人に教えられて身に付けてきました。

青年期になれば「分かったらやる」と変化し、成長していくのですが、このことだけになってしまうと、頭でっかちになり、「分かったらやる、分からないことはやらない」となりま

さらに年を重ねると頭が固くなり「分かってもらえない」。さらに年を取って身体が動かなくなると「分かってもらえない」。こんなつまらない人生はありません。

どんなに美味しい物でも食べなければ分からない、食べたら分かる。スポーツでもすれば分かる。友人は、付き合い合っ

て初めて友だちになれる。学校の入学案内も入らなければ分からない。どんな面白い小説や映画でも読んだりみたりしなければ分からない。

この世の中、すべて、実は、やっただけに分かることばかりです。

◎「三日の間の道」を通ればよい

にも関わらず、信仰・神様ということになると、途端に「分かったらやる」となる人が多い。

どうして、そこから動くということにならないのか？——私は、やはり、人間の心に、嫌なことは避けて通りた

い、無駄足は踏みたくない、楽しんでほしい、面倒を嫌うという心があるからだと思います。どうしてもその心があります。

結果、「分かったらやる」・「たすかるんならやる」——これは真実でも何でもありません。取引です。これではたすかりません。

本来たすからないものを私たちの真実をお受け取りくださってたすかるのです。

やったら分かる世界。——教祖は、なかなか動けない私たちのために、どうでしょう、皆さん、わざわざ五十年も通って見せてくださいました。

その上、五十年通れと仰るのではなく、まあ十年の中の三つや。三日の間の道を通ればよいのや。僅か千日の道を通れと言うのや。

(明22・11・7)

と仰せになり、三年千日の道を通れば、親が五十年通った理と同じ理に受け取るとお約束くださっています。何と有り難い親心ではありませんか。

その三年千日を仕切って歩むのが年祭活動です。その年祭活動も残すところ後1年、教会・一人ひとりが教祖の御恩にお応えし、具体的な目標をしっかりと定めて、せめてここまですべてここまでとつとめ、そしてその成果と成人した私たちの姿で教祖130年祭には教祖に手を打って喜んでいただけるように歩みたい。

おさいぶに、

一升のものに譬え、九合無くなりて一分一つの理が万倍という。(明23・6・12)

一升瓶で考えると1升の内9合尽くすのは真実だが、残った中から尚尽くす真実が一粒万倍の御守護をいただく元となるという意味だと思います。

一方、十のものと九つ半大切して、半分だけ出けん。十のものの半の理で九つ半まで消す。よう聞き分け。(明26・6・19)

九つ半でもう出来たと安心したり、自分としたらこれだけやったら十分や

と自分で得心してしまつて、結局、やり切らないと、それでは元も子もなくすことになりかねないということでしょう。建物は9割方できても未完成。病気も9割治つていても、残った1割でたすからねば何にもなりません。

この2つのおさしづの違いはどこからくるのか。それは御恩を感じ、その御恩にお応えしたいと喜び心で尽くした上にも尽くす真実の姿と、やつてはいるが、頂戴した御守護に慣れ、御守護を忘れ、尽くしたことがかり教える姿との差ではないでしょうか。

年祭活動は正に、やり切る旬、尽く切る旬。悔いのないつとめ・働きをしようではありませんか。

\* \* \*

最後に、三代真柱様のことについて触れたい。今年の6月、思いも掛けず、前真柱様のお出直しという厳しい節をお見せいただきました。

前真柱様は永年に亘り本当に暖かい大きな親心をもって私どもをお導きお連れ通りくださいました。

おちばでの行事の際に、前真柱様にお目に掛かって声を掛けてもらい、写真にお入りいただいた団体もあつたで

しょう。

私は、少年会のご用をしている時代、いつも前真柱様に随いて、会場を巡視しました。前真柱様は会場の行事を見に回っておられたのではありません。引率をしておちばへ子どもたちを連れて帰ってくるその人たちを励ますために、わざわざ車で行くようなところでも歩いて、そして、遠回りしてでも、団体のいる方へ、人が歩いていそうなところへ足を向けられ、暑い最中、時には背中が透けて見えるほどの汗をおかきになりながら、毎日毎日巡視に回られました。

出会った団体の方は、「今日、ぼつたり、真柱様にお会いした」と偶然、前真柱様にお会いしたんだ」と喜んでいました。偶然でもぼつたりでもありません。わざわざ会うためにお出かけになつていました。このように私たちの気付かないところでも、こうして親心を掛けてくださっていました。その前真柱様の悲願と申してよいものに、教会内容の充実がありました。どの教会も賑やかなおつとめのできる教会に、たすけの道場に相応しい雰囲気のある教会になつてもらいたい、これが、前真柱様の願いでした。

年祭活動残された1年、皆さん、ただ今の真柱様の心に一つに溶け込んで、それぞれが、教祖から頂戴している御恩を噛み締め味わい直し、何としても教祖にお喜びいただくという意気込みで年祭まで、おたすけにつとめ励みたい。

そうして年祭の日を迎え、教祖から「ようやった」と言うていただけるよな、また、前真柱様の霊様にご安心いただけるような歩み方をしたいと、このことを切にお願いいたします。

\* \* \*

◎閉講挨拶……………大教会長様

ただ今は、深谷先生から時旬に当たつての大事な大事なお話しをお聞かせいただきました。

「諭達第三号」をご発布いただいてから今日までの2年、諭達の思いに応えるべく、「さあ！おたすけ 祈る 動くつなぐ」というスローガンを、また、実践項目を掲げて、今日まで来ています。

動くことによつて不思議を見せていただき、「本当にこの旬、教祖が働いてくださっている」と感じた方も大変

多いのではないかと思います。やはりそれは、動いた方がその思いを味わつたのは事実だと思います。

2年目が終わろうとしているこの旬に、まだまだ動き切れてなく、教祖のお働きを感じられてない人が、まだまだおられるのではないのでしょうか。

教祖は年祭に関わらず普段もお働きくださっていますが、この教祖の年祭は、より一層、ふふぶくの上に働いてくださる旬であることを考えると、やはり、この旬に、教祖のお働き、本当に教祖ご存命ということをしつかりと味わわなければ年祭の意味がないと改めて思います。

いよいよ来年は、もう残すところ1年、仕上げの年です。

今まで、1年・2年と、とにかく一人ひとりがおたすけの心を遣う、自分が出るおたすけをしようと、共々に言葉を交わしながら今日までできました。もう十分に、教祖にお働きいただく理作りは出来たと思えます。

とするなら、来年、仕上げの年は、いよいよ、お働きいただくその姿に成果を見せていただくことが、教祖のお姿・お働きを感じることになると思えます。

いよいよ仕上げの年、「さあおたすけの感動・感激を味わっていただこう」。「教祖を感じさせていただこう」を合い言葉に、残された1年、共に精一杯つとめ切り、親神様・教祖にお喜びいただく1年にしたい、かように思うところです。

昨日、教会ごとに心定めを出していただきましたが、ただ数字を出す「出来る心定めではなく、これは到底出来ないだろう」ところをしっかりと心定めし、何でもどうでもと働いて、そこに、出来たところに、成果を御守護いただいて教祖のお働きを感じられるのではないのでしょうか。

改めて、しっかりと、心定め完遂ということ、その成果として、おちば、別席場が賑やかになるようにということ、来年も10月25日に別席・ひのきしん団参をしますが、来年は、芦津眞明会(芦津・笠岡・池田を入れて全部で6教会)が集結してつとめます。皆さん方にも、しっかりと、その点を中心に置いて、今まで以上に力を入れて、とにかく動き切る1年としましょう。

《以上要約》

立教178年 各教会の抱負 及び 年間行事予定

教祖百三十年祭三年千日 年祭活動推進委員会

笠岡大教会では、教祖百三十年祭へ向かう三年千日、年祭活動のスローガンを

さあ、おたすけ!

祈る 動く つなぐ

と定めさせて頂いております。昨年はその年祭活動2年目を、積み重ねの年として、1年目の実践を継続しつつ、2年目の実行目標の実践を積み重ねようと申し合わせて歩ませて頂きました。

この成人目標は、スローガンであるおたすけが特定の人だけではなく、全てのよふぼく・信者一人一人が取り組む事の出来るよう、一年一年実行目標のステップアップを通して、段階をおって成人の歩みを進めようというのが狙いです。成人目標は、教会、家庭、個人で取り組めるよう笠岡独自に作成したものです。教会に1枚、家庭に1

枚ではありません。一人に1枚です。自分の成人目標です。引き続き活用をお願いいたします。具体的な活動例の中から、或いはそれ以外でも結構です。自分自身で一年を通しての取り組みを定めて下さい。誰が見ていなくても親神様、教祖をご覧下さっています。

そして、特に教会長は自身の実践はもちろんですが、教会に繋がるよふぼく・信者が取り組めるよう、教会から家庭へ積極的に声掛けを行い、家庭に於いては家族ぐるみで実践できるように声掛け、働きかけることを行って下さい。それが、教会から家庭、個人へのつなぎになるのです。

本年は年祭活動3年目を迎えさせて頂きました。仕上げの年として、今年の実行目標は、過去二年の取り組みを通して伏せ込んできたその成果を御守護頂きたいという上から、具体的な数を挙げて取り組んで参ります。教会に繋がるみんなが、成果にこだわる一年にさせて頂きたいと思えます。

その実行目標を「祈る——毎日お願いごとめを勤めましょう」「動く——全教会が心定め完遂を 初席298名、修養科147名、おさづけ拝戴224名」「つ

なぐ——万人のおちばがえり」と定めさせて頂きました。今年一年、実行目標の達成を目指して歩ませて頂きましょう

過去二年、具体的な活動として「おたすけ・お願いカード」に取り組んできました。月を重ねることにお願い件数も増加し、人のたすかりを願う人が増えてきておりますが、全よふぼく・信者という上からはまだまだ声が届いておりません。陽気ぐらしの原点は人のたすかりを願う心からです。3年目も引き続き取り組ませて頂きますので、教会で新たに取り組む人が増えるよう、教会で、家庭での声掛けをお願いします。

「毎日お願いごとめを勤めましょう」

過去二年間は「おたすけ・お願いカード」を通して人のたすかりを願い、また、たすかりを願う人に、一回でも多くおさづけを取り次がせて頂けるよう歩ませて頂きました。そうした動きを継続しながら、本年は、お願いのおつとめをさせて頂こうと定めさせて頂きました。教会で、或いは個人宅で時間を決めて、おつとめ前にお願いいカードに記入し、それをお供えて、人のた

すかりを願うおつとめを毎日勤めさせて頂きましょう。

真柱様は秋の大祭で、「自分の無関心のゆえに、苦しんでいる人の存在を見過ごしてしまつては申し訳ないことだと思ひます。身上や事情で苦しむ人のあることに気づいたならば、親神様にご守護をお願いすることからでも出来るでしょう。また、見るもいんねん、聞くもいんねん(明23・9・27)という上からは、人ごとと思わず、我がことと受け取る事も大切であります」とお述べ下さっています。

おつとめは全てのたすかりの元で。一年間続けさせて頂きましょう。

「全教会が心定めの完遂を！ 初席298名、修養科147名、おさづけ拝戴224名」

では、具体的な数字を掲げて人作りの上に丹精させて頂くという事です。その具体的な数字は、大教会として独自に掲げた数字ではなく、それぞれの教会から運ばれた人作りの心定めの数を集計したものです。この心定め達成のためには、各教会の心定め完遂が絶対条件です。

全教会に、教会の心定めを記入するA3版の用紙を配布しております。そ

の用紙に教会名と教会の心定めの数を記入し、神殿内など人の目につく場所に貼りだして下さい。教会の心定めですので、教会に繋がるみんなに常に意識してもらえよう働きかけて頂き、丹精を呼びかけて下さい。人数の横に丸印がありますが、人作りできたら塗りつぶして頂き、成果が目に見えるように活用して下さい。

「万人のおちばがえり」

では、今年一年おちばがえりを目指して努めさせて頂きます。教祖にお喜び頂く一番の姿は、日頃のおたすけを通して、別席者をおちばへ連れ帰ることだと聞かせて頂きます。そして、教祖がお待ち下さるおちばへ一度でも多く足繁く帰らせて頂くこともお喜び下さる姿です。教会長は毎月のおちばがえりでおちばの理を頂戴し、よふぼく・信者にはおちばがえりへの声掛けをしつかりと行うことが大切なことです。また、よふぼく・信者家庭へは家族ぐるみでのおちばがえりを勧めることも大切なことです。

特に10月25日には、芦津眞明会(芦津・笠岡・西宮・池田・双名島・玉島)が合同で別席団参を行う旨の発表がありま

した。笠岡として、二千名の帰参を心定めさせて頂いております。例年以上に別席者の増員に力を入れながら、おちばへの伏せ込みもさせて頂きます。増員の上にお力添えをお願いいたします。

本年も年祭活動のうえにご尽力と、教会へ繋がるよふぼく・信者へのご丹精をよろしくお願い致します。

◎関連行事

(詳細は、都度お知らせします。)

1. 笠岡にをいがけデー統一活動日

期 日 9月23日(火)

※笠岡として統一した活動を予定しています。

2. 若人のつどい

期 日 11月23日(日)

場 所 笠岡大教会

布教部

真柱様は一昨年の年頭あいさつの席上、論議に込める思いを「毎日の暮らしの中で心がける、身近なところからささやかなことでも、日頃から心がけることをしてもらいたい。年祭へ向

かっておたすけの活動に励もうというのがその中心であったのであります」とお話し下さいました。正しく笠岡の年祭活動の後押しをして下さったように思ひます。私たちが大教会よりお打ち出し頂く年祭活動に沿って歩みを進めることは間違いのない、教祖にお喜び頂ける歩みだと思ひます。更には、この年祭への歩みの積み重ねが、たすけ道場であり土地所の陽気ぐらしの手本道場として相応しい教会の姿へとご守護頂けるのであります。

現代の日本が抱える社会問題として、少子化、自殺、児童虐待、引きこもり、心の病、多重債務など様々。それらの根幹は家族をはじめとする地域社会や学校、会社などでの人間関係の希薄さが大きな要因として挙げられます。本教の御教えはこれらの問題の根元にアプローチできる教えであり、むしろお道の教えこそが、今もつとも求められている教えであります。その上で、ちばの理を戴いた土地処の陽気ぐらし道場である教会のあり方が、現代日本社会の諸問題の解決に不可欠です。

しかしながら、現実には当該の問題に関わる以前に、その問題自体の認識が

弱く、関わり方が分からず足踏みしている状態が少なからず見られる現状ではないでしょうか。笠岡大教会では、教祖百三十年祭年祭活動スローガンを『「さあ！おたすけ」 祈る動くつなぐ』と定め、それぞれの実行目標に、具体的な活動例を掲げて、身近なところからおたすけに取り組めるよう実践に励んでいます。そうした身近なおたすけを実践していく上で、更に悩む人に寄り添い、声を掛けるために、まず本人が抱える問題の内容について理解することが必要だと考えます。

そうした上から、今年の教会長講習会は、より専門的な知識を習得し、今後のおたすけに活用してもらおうと、本部布教部管轄のひのきしんスクールや福祉セミナーの内容を、専門講師をお招きして詰所を会場に開催します。初めての試みではありますが、より具体的な内容を学ぶ事が出来ると思います。

そうした上から、今年の教会長講習会は、より専門的な知識を習得し、今後のおたすけに活用してもらおうと、本部布教部管轄のひのきしんスクールや福祉セミナーの内容を、専門講師をお招きして詰所を会場に開催します。初めての試みではありますが、より具体的な内容を学ぶ事が出来ると思います。

～私達にできるにを  
いがけ・おたすけを考  
える～

日時

2月26日13時30分 受付  
14時00分 開講式  
27日12時30分 閉講式

講義

①「おつとめで夫婦を治め、  
たすけ心を子につなぐ」  
講師：小森純一氏(大江部  
属純泉分教会長)

②「おさづけの取り次ぎにつ  
いて」  
講師：大教会長様

③「現代社会の諸問題へのア  
プローチ」(分科会形式)  
講師：大教会長様

テーマ①里親制度とその取  
り組みについて  
②精神の疾患と障害  
「うつ病」  
③高齢者支援「認知  
症への関わり方」

※右記のテーマ①②③の中か  
ら1つ選んで受講して頂き  
ます。

・その他、笠岡に繋がる教会の中で、  
地域社会に根ざした活動を推進し  
ている教会やよふぼくの取り組み

を紹介します。  
26日は夕食を兼ねた情報交換を予  
定しています。

対象 教会長

受講お供 3,000円

(受付で納めて下さい)

※身上等でやむを得ず欠席の場合  
は、その理由を必ず大教会長様に  
連絡して頂くようお願い致します。

●教会長以外で各講義の聴講を希望  
する方は、自由に聴講して頂いて  
結構です。

2. 別席ひのきしん団参

期日 10月25日(日)

別席ひのきしん団参を実施して  
数年が経過します。帰参者の増員  
はもちろんですが、本年は特に別  
席者の増員に力を入れて取り組み  
たいと思います。初席者、中席者  
のご守護が頂けるよう、各教会で  
声掛け、働きかけをお願いします。

3. 立教178年全教一斉ひのきしんデー

期日 4月29日(月・祝)

※参加への呼びかけを(特に、教会  
と離れた地域に住まうよふぼくへ  
も、所属教会から積極的な声掛け

をお願いします)

4. 立教178年全教一斉にをいがけデー

・9月28日(日)

全教会長路傍講演の日

・9月29日(月)・30日(火)

全よふぼく実動日

※9月は布教強調の月です。部内教  
会を拠点とさせて頂いて、布教部  
員の布教活動を計画しておりま  
す。

海外部

海外部員は全員が海外布教に想いが  
ある、語学に堪能であるという訳では  
ありません。むしろどちらも得意でな  
いかもありません。しかし、今この同  
じ時代に生き、笠岡に所属し、大教会  
から命を受けた者達で、笠岡の海外に  
繋がる人たち、海外から日本へ在住し  
ている人達へのお世話取り、また次代  
を担っていく人達の人材育成・丹精が  
少しでも出来ればと思っています。

諭達を受けて教祖130年祭に向かう三  
年千日の仕上げの年、海外部は来年の  
当日に海外からの帰参者(日本に在住  
する海外者を含めて)50名を定めまし

◎年間行事

1. 立教178年教会長講習会

テーマ 「地域・家庭の身近なお  
たすけに取り組む」

た。今年はいよいよ部員で海外の地に  
赴き帰参を呼びかけさせて頂くととも  
に、帰参される方のお世話取りの準備  
を進めていく予定です。遠い地で活躍  
されるよふぼく・信者の方々に教祖年  
祭に向けての大教会長様の思い、大教  
会の進む指針などを所属教会の人達と  
相談しながら伝えさせていきたいと思  
います。

現在笠岡には米国、台湾、ブラジル、  
タンザニア、ケニアによふぼくが生活  
しています。また、海外から来日して  
いるよふぼく、信者もいます。その人  
達と少しでも信仰の喜びを深め繋げて  
いきたいと思ひます。

今年も常時の活動として3月、11月  
に広島平和公園で海外からの旅行者に  
外国語パンフレット配布をします。こ  
れは海外布教に携わる理作りをさせて  
頂くという思いでさせて頂いていま  
す。

英語講習会は、語学学習を通しての  
お道の勉強、国際意識の向上、また次  
代を担う海外に向かう人材の育成を目  
標としています。

昨年11月の月次祭に合わせて海外伝  
道講習会で森洋明先生に来て頂き、ア  
フリカコンゴの伝道の話聞かせて頂

きました(かさおか12月号参照)。今年  
も11月に海外布教講習会を開催しま  
す。海外経験のある講師の話聞かせ  
て頂き、おちばで始まり日本で育つた  
教えが世界に向かうことの難しさ、世  
界の中の天理教の存在、おやさまが仰  
せられた「世界たすけ」の想いを聞い  
て感じられたことを、日々の信仰生活  
の中で生かして欲しいという思いであ  
ります。

少ない部員で出来ることは限られて  
きますが、「世界へ」の微々たる歩み、  
遅々たる歩みを少しずつでも切れない  
ように繋いでいきたいと思ひます。

### 育成部

私が行かなければこの鳴物は音を出  
せないのだ。

私がつとめさせて頂いたかなければ  
手が不足するんだ。

大教会長様はいつもおっしゃって下  
さるのがおつとめ奉仕人の増員なので  
す。いわゆる、つとめの理を立てると  
いうことに親神様はお受取り下さるの  
でありましょう。毎日毎日、そのこと  
を願いながら一生懸命努力をつむこと  
でしよう。

育成部はよふぼくの育成を計る為、  
月々、会議室で午後1時15分から2時  
まで「よふぼく勉強会」を行っていま  
す。心の勉強をさせて頂きましょう。  
互いに話し合いをして、この130年祭三  
年千日の仕上げの年を有意義に、育成  
部の「よふぼく勉強会」を活用しまし  
よう。

### よふぼく勉強会(平成27年計画)

3月 テーマ お話しの担当者(敬称略)

3月 道の台

岡崎豊子(弥高山分教会会長夫人)

6月 夫 婦

田中ますみ(福山分教会前会長夫人)

7月 親のあとを子が続く

香取雅人(川島郷分教会会長)

8月 道と社会

瀬藤友昭(大恵山分教会会長)

9月 にをいがけ

三代 幸(米府分教会会長)

12月 教祖130年祭おちばがえり

佐藤道孝(芳井分教会前会長)

### 管理部

管理部の活動は、教祖年祭とは関係  
なく、年々変わりなく行うものですが、  
大教会として詰所へお帰り下さった信

者さんに、気持ちよく過ごして頂き、  
又、外部からのお客様に恥ずかしくな  
いよう、設備並びに外廻りを整備させ  
て頂く陰のつとめです。

大教会詰所共、規模が大きいの  
多数の人の協力が必要です。今年も皆  
様方のお心寄せをお願い致します。

・夏期 草刈り

・10月 剪 定

・11月 障子張り

・12月22日 大掃除

### 婦人会

三年千日と仕切らせて頂いた年祭活  
動も、仕上げの年を迎えました。昨年  
はよふぼくの集い、委員長講習会等  
皆様のお力添えを賜わり誠にありが  
うございました。

さて私達婦人会員は、仕上げの年に、  
教えに基づく心の成人を目指し、日々  
の心遣いに心を配り、教えの実行がで  
きるよう日々努力させて頂きましょ  
う。そして親神様へのご恩報に明け  
暮れする日々を通して頂きましょ  
う。

5月30日に支部総会を開催させて頂  
きます。十年前大教会長様からお聞か

せ頂いた「一教会一名以上のおつとめ奉仕人の増員」にむかい、この度の総会には、新しいおつとめ奉仕人のご守護を願い、一委員部一名の新しいおつとめ奉仕人のご守護に苦心しつとめさせて頂こうと思ひます。婦人会員の皆様、お力添えよろしくお願ひ申し上げます。

又、4月19日、婦人会本部総会には、別席者のご守護を目指し、全委員部からの参加につとめさせて頂きましよう。仕上げの年「仕切り力」でお連れ通り頂きたいと存じます。

婦人会笠岡支部長 上原きよ代

## 青年会

新年明けましておめでとうございませす。昨年は、青年会活動に多大なるお力添えを頂き、誠にありがとうございました。本年も一層のお力添えを頂きますよう、よろしくお願ひいたします。

さて、青年会では昨年、中山大亮様  
が五代会長に御就任され、年祭活動中に大きな追い風を頂きました。仕上げの年に当たる本年、青年会本部の『ローガン』たすけの渦を巻き起こそうの下、分会活動を展開し、分会の心定

め完遂に向けて全力で勤めさせて頂きます。

### ◆笠岡分会心定め

一日一つにをいがけ。

#### 全会員五百名の実働

日々の実践目標を記したビンゴカードとボールペンを、全会員(50名)にお渡ししています。(R178年1月現在 配布率4割弱)

### ◆本年の分会活動

- ・おやさとふしん青年会ひのきしん隊  
..... 6月1日〜24日
- ・ひのきしん団参..... 6月28日
- ・あらしとつりよう入門塾  
..... 8月15日

### ・全分会布教推進週間

- ..... 9月6日〜13日
- ・第91回天理教青年会総会  
..... 10月27日
- ..... 毎月(随時)
- ・有志ひのきしん隊..... 毎月(随時)

## 少年会

日頃はそれぞれの立場から、少年会の活動のご丹精くださり、誠にありがとうございます。

少年会の活動は、子どもたちが立派

なようぼくなるための基礎を作る活動です。

子どもたちの育成にあたって、少年会の「ちかい」にありますように、「教えを学びひのきしんに励み互いにたすけあつて立派なようぼくに育ちます」——このことを心に置いて、子どもたちを育てさせて頂きたいと思ひます。

そして、子どもにだけ言うのではなく、育成会員もこの「ちかい」にそつたようぼくかどうか振り返りつつ、次代を担う子どもたちの育成に励ませて頂きたいと思ひます。どうぞ今年もよろしくお願ひ致します。

### 少年会笠岡団立教178年行事予定

- ・3月30日〜4月1日 鼓笛合宿
- ・4月1日 おつとめまなび総会
- ・5月17日 縦の伝道講習会
- ・7月26日〜8月4日 こどもおぢばがえり
- ・8月22日〜24日 サマーキャンプ
- ・9月21日 てっちゃんと遊ぼう(わかぎのつどい)
- ・2・3・6・7・8・9・11月の大教会月次祭後 てっちゃんシアター(親子

### 参拜)

## 学生担当委員会

### 立教178年活動方針

#### ▼基本方針

「おたすけの喜びを学生に！」

くあらしとつりよう・みちのだいとして共に育とうく

学生層育成の御用を頂戴している私達には、道に引き寄せられたすべての学生がおぢばに帰り、教会につながつて、信仰の喜びとともにおたすけの喜びを味わえる様に導き、別席を運び、ようぼくとしておさづけを取り次ぐまでに丹精していくことが求められています。

そのためには、まず育成にあたる私達がお互いが、一ようぼくとしておたすけに励み、その勇んだ姿を学生に映し、おたすけの喜びを積極的に伝えていくことが肝心です。

また、縦の伝道を意識して、少年会員を終えた学生が着実に道を歩み、学生を終えた後も道から外れていかないように、教会につなげ、若きあらしとつりよう・みちのだいとしての自覚を促していくことも私達たちの大切な役割で

す。

教祖130年祭に向かう三年千日の仕上げの年にふさわしい勇み心と実働をもって、学生と共に育つ努力を重ね、年祭当日は成人した姿をご存命の教祖にご覧いただきましょう。

▼重点項目

- 1. 「こどもおぢばがえり」参加経験者を道につなげよう
- ・声かけの一助として『Happist』を活用する

- ・「春の学生おぢばがえり」、高校生を集い「まなびば」をはじめとする各行事への参加を呼び掛ける
- 2. おさづけを積極的に取り次げるようぼくへと丹精しよう
- ・別席を運び、おさづけの理を戴いてようぼくになるよう丹精する
- ・「学生生徒修養会」受講者の増員を目指し、特に2回以上の受講を促す

- 3. 青年会活動・婦人会(女子青年)活動への積極的な参加を呼び掛け、あらかとよりよう・みちのだいとしての自覚を促そう

学生会 年間行事

- ・春の学生おぢばがえり 3月28日

・おぢば管内学生の集い

4〜5月で開催

・学生層育成者講習会

2月21日

・学生生徒修養会

大学の部

3月3〜9日

高校卒業コース

3月6〜8日

高校の部

8月9〜15日

・おせち学生ひのきしん隊

1月4〜7日

雅鶯会

雅鶯会では、各教会での月次祭で雅楽を奉仕する人を養成するため「勉強会」と「講習会」を開催する予定です。将来は少年会員や女性会員による雅楽奉仕の姿を見たいものです。また、祭典に雅楽を演奏したいが奉仕者がいないという教会にはご希望があれば平調の雅楽CDを進呈いたします。お役立てください。

平成27年行事予定

- ・3月1日(日)雅楽勉強会 対象は少年会員、大人(初心者、初級者、中級者) 於:大教会
- ・6月27日(土)・28日(日)雅楽講習会 対象は少年会員、大人、雅鶯会

員(初級者、中級者、上級者) 於:大教会

・11月27日(金)・28日(土)雅楽講習会 対象は雅鶯会員 於:大教会

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されてきましたので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽1月1日付「新春歌壇」

・海松ヶ岡◎ 藤井光子さん  
暁のほのぼの明くる未年

平和を祈り初日の出待つ

・東悠◎ 田林美智子さん

この地球のもろびと真にたすけ合  
神もほほ笑む世にぞなりたし

・海松ヶ岡◎ 池田広子さん

我が身より夫の身上を拜みて

新春の今日もさづけ取り次ぐ

▼『陽気』誌二月号「道柳」より転載。

▽佳 詠

・東悠◎ 田林美智子さん

年ふりて一入嬉し元旦祭

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介 ③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字) 題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は一句からでも結構です。

寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵 便: 〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX: 0865-66-1314

メール: [tenkasa@yahoo.co.jp](mailto:tenkasa@yahoo.co.jp)

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



# 大教会年末大掃除

12・22

管理部(武内清明部長)では、12月22日、午前9時より大教会の年末大掃除を大教会長様をはじめ約90人が参加して行った。三殿礼拝後、大教会長様から挨拶、掃除手順の説明があった。作業は神床から始められ、はたきを掛け、



水拭き、空拭きと、毎年同様それぞれ手際よく行われた。神殿の中段、参拝場ではバタ板をレールにビデを組み同様の作業が進められ、更に高い欄間などは二連梯子を使い行った。回廊、信者室、講堂の窓拭きなどは婦人会を中心にトイレ掃除に至るまで目を配り、また、おやじ会は率先して外回りの清掃に励んだ。カレーライスで昼食をと

12月27日、笠岡詰所で毎年、恒例の餅つきが行われた。これは御本部元旦祭に御供えする鏡餅をつくもので、老若男女問わず約60人が参加した。午前7時から作業が始まり、餅米の湯気が立ちこめる中、3台の石臼で餅をつく

# 恒例の餅つきに活気あふれ

12・27 詰所

大教会内各所で勇んでひのきしんに励んだ



手分けして、段取りよく搗かれた

この日ついた餅は、御本部用(5升餅28枚)、詰所用(2・5升5枚)だった。威勢のよい音が響いた。参加者はそれぞれの役割ごとに心を込めて丁寧ひのきしんに当たり、午前11時すぎには、全ての作業が終了した。師走の寒い中であつたが、活気あふれる一日となつた。



# 十二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます  
親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には一れつ子供陽気ぐらしを樂しみに日々は親心一杯に御守護を下さると共に 身上や事情にしるしを見せて心の掃除をして陽気ぐらしへと  
お導き下さいます事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は年毎の  
心定めを常に心に湛え 年祭活動二年目を積み重ねの年として年頭より勇  
で成人の歩みを進めてまいりましたところ 成人目標の実践の上に次々と不  
思議をお見せ頂き 教祖存命のお働きの感じる事が出来ました事は誠に嬉し  
い限りでございます

そんな中 本日は早や本年納めの月次祭を執り行う日柄となりましたので  
只今よりおつとめ奉仕人一同喜びと感謝とたすけ心も一入に明るく陽気に勇  
んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には年の瀬の慌ただ  
しさ寒さ厳しき中も厭いませす 今日の日を樂しみに寄り集いました道の子  
供達が相共にお歌を唱和し 五万九千五百七十七枚のおたすけお願いカード  
に込められたたすけ心と共に 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げる状を御  
覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて本日は祭典の後本部巡教を受けさせて頂きます 年祭活動二年目の終  
わりに当たつての巡教に込められた親の思いをしつかりと受け止めさせて頂  
いて 来年仕上げの年にふさわしい成果をお与え頂けるよう笠岡一丸となつ  
て成人の歩みを進めさせて頂く覚悟でございます

その為にも今年一年をしつかりと反省し 反省の上に来年に向けてたすけ  
一条の心を定め 年祭のこの旬に教祖に充分にお働き頂けるようにをいがけ  
おたすけの上に進んで苦勞をさせて頂いて「さあおたすけ」の感動・感激を  
味わえるようつとめて目標であるおつとめ奉仕人の増員に繋げていく所存で  
ございます

何卒親神様には今年賜った御守護の数々に改めて御礼申し上げます 新た  
な年により一層の成人をお誓い申し上げる皆の誠実の心をお受け取り下さ  
いまして 万たすけの上にも尚も自由の御守護を賜り 一人でも多くの人を御恩  
報じの道へとお導き下さると共に 心豊かな年末と喜びと感謝で笑顔あふれ  
る年始を迎えられますよう御守護お導きの程を 一同と共に慎んでお願い申  
上げます

## 立教百七十七年 十二月月次祭 祭典役割表

|    |             |
|----|-------------|
| 祭主 | 大教会長様       |
| 扨者 | 中島誠治<br>三島渉 |

|     |              |
|-----|--------------|
| 賛者  | 吉岡誠一郎        |
| 指図方 | 上原繁次<br>上原繁道 |

\*本部巡教のため、祭典講話なし

二月講話  
学生層育成者講習会

| 役割  | 区分 | 地方 |    | おつとめ |    | 笛  |     | ちやんぼん |    | 拍子木 |    | 太鼓 |    | すりがね |    | 小鼓 |    | 琴  |    | 三味線 |    | 胡弓 |  |
|-----|----|----|----|------|----|----|-----|-------|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|----|----|-----|----|----|--|
|     |    | 吉岡 | 三島 | 大教会  | 上原 | 岡本 | 大教会 | 門脇    | 佐藤 | 菅尾  | 森本 | 今川 | 今川 | 上原   | 赤木 | 山野 | 田中 | 虫明 | 今川 | 佐藤  | 今川 | 佐藤 |  |
| 坐り勤 |    | 久嗣 | 渉  | 長様   | 繁道 | 真孝 | 郁子  | 正治    | 忠平 | 昌彦  | 澄雄 | 隆之 | 好美 | 香苗   |    |    |    |    |    |     |    |    |  |
| 前半  |    | 村剛 | 内伸 | 中村   | 上原 | 武内 | 門脇  | 岡崎    | 上原 | 高木  | 山野 | 赤木 | 森本 | 内海   | 高木 | 内海 | 森本 | 内海 | 今川 | 佐藤  | 今川 | 佐藤 |  |
| 後半  |    | 佐藤 | 中村 | 中村   | 門脇 | 上原 | 横山  | 森本    | 浅野 | 渡邊  | 虫明 | 内海 | 武内 | 谷内   | 菅尾 | 尾一 |    |    |    |     |    |    |  |

### 第887期修養科募集要項

**\* 修養科期間**

立教178年3月1日～5月27日

**\* 教 養 掛**

- 3ヶ月間 三代 温生 (大教会准役員・雲東分教会長)
- 1ヶ月目 藤井 正仁 (福富士分教会長)
- 2ヶ月目 三島 順教 (葦沼分教会長)
- 3ヶ月目 掛谷 宣和 (坪生分教会長)

**\* 募集要項**

- ・志願者は、3月末日現在で満17歳以上で、必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・2月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、5月29日午前10時に解散。

## 大教会だより

◎直属ひのきしん特別隊

自 立教178年1月16日  
 至 立教178年1月20日  
 芳井 山口 晃 治

◎立教178年春季大祭参拝

(成人目標徹底のため、教祖百三十年祭三年千日祭活動推進委員も巡教員に加わった)

福山 大教会長 様  
 高屋 大教会長 様  
 神邊 中村 剛 様  
 島根 田中 隆之 剛 様  
 久松 佐藤 道孝 様  
 鶴山 大教会長 様  
 弥高 上原 志郎 様  
 陽備 吉岡 誠一 郎 様  
 摩耶 佐藤 道孝 様  
 金浦 中村 剛 様  
 興明 武内 正美 様  
 ひろさと 吉岡 誠一 郎 様  
 陶山 大教会長 様  
 芳井 上原 志郎 様  
 吳照 門脇 元教 様  
 海松ケ岡 門脇 元教 様

東悠 大教会奥様  
 吸江 大教会長様  
 照陽 吉岡 壽 様  
 輝美濃 大教会奥様  
 新山邑 上原 繁道 様  
 皆部 大教会奥様  
 明石市 上原 繁道 様  
 府中市 武内 正美 様  
 東城 佐藤 道孝 様  
 服部 上原 繁道 様  
 島中 田中 隆之 剛 様  
 驛家 吉岡 隆 剛 様  
 油木 中村 剛 様  
 葦陽 大教会奥様  
 湯田 田中 隆之 剛 様  
 備中 吉岡 隆 剛 様  
 神昭 上原 繁道 様  
 美郷 武内 正美 様  
 錦備 吉岡 誠一 郎 様  
 笠晴 上原 志郎 様



この度、十二月の教養掛助員を終えて思うこと。修養科生は一ヶ月目で

あった。私も一ヶ月目の助員は初めての事。初めての助員、二回目の助員は八月だった。暑い季節でもあり、七月二十五日の初日から次の日、二十六日はこどもおぢばがえりが始まる事もあり、食堂はてんてこ舞い。期間中はごみ集めに追われ、午前、午後の収集では間に合わず、何度か大量のごみと格闘する。分別も大変だ。しかし、とうとう寒い時期に助員を勤める事に。私は暑いのも寒いのも苦手だが、足だけは燃えている。詰所内では裸足であった。が、手のあかぎれ、足のかかとのあかぎれは毎年の事だが、この度は大量のあかぎれで、毎日コロスキンを塗って、はしる痛みと格闘。最後に教養掛主任のY先生のもと、一ヶ月間、型破りな日々を通して頂き有り難いばかりであった。色々あったが充実したおぢば生活を過ごさせて頂き、Y先生、修養科生、詰所の先生方、食堂ひのきしんの方々、本当に有り難うございました。感謝。

(村)

を明るく歩み抜かせていただきたい。

世界は、我が身思案に流れて掛け合う喜びを忘れ、苦悩と混乱にあえいでいる。一日早く親  
神の慈愛に導かれたお互いは、その喜びを深く味わい、一手一つの和を以て、はたはたを樂さ  
せる、働くことの真意を世に映したい。すんでよふほくは、たすけ一条の実践を以て、たす  
ける理がたすかる、天の理を人々に伝え

せかいどういちれつわみなきまいたいや

たにんとゆうわさらにないぞや (二三 43)

とのお言葉通り、世界の兄弟が互いに睦み合う、陽気ぐらしの世の様をお見せいただけよう  
う、年祭活動の第一歩を踏み出すに当たり、決意を新たにしている。

ここに信念を披瀝して、全教の奮起を促し、親神の守護、教祖の導きを願ひ奉る。

昭和四十八年一月二十六日

眞柱 中山善衛

1・26 木津和分教会二代會長丸山確一任命(初代会長丸山吉郎辞任)

就任奉告祭：二月一日

1・26 木津和分教会恒例祭日変更(毎月二日・六日)

2・7 三代會長・上原繁雄 第一回天理教梅華会団長として訪台(第十回まで参加)

2・20 本部長・平野知一先生を講師に本部論達巡教(四八〇余人)

2・26 鍋備分教会三代會長室喜久子任命(二代會長徳永ツル辞任)

就任奉告祭：三月四日

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛

2・26 眞柱 中山善衛

3・26 眞柱 中山善衛

4・26 眞柱 中山善衛

5・26 眞柱 中山善衛

6・26 眞柱 中山善衛

7・26 眞柱 中山善衛

8・26 眞柱 中山善衛

9・26 眞柱 中山善衛

10・26 眞柱 中山善衛

11・26 眞柱 中山善衛

12・26 眞柱 中山善衛

1・26 眞柱 中山善衛